

2018年度 第2四半期 決算説明会資料

2018年8月9日(木)
カゴメ株式会社(2811)
<http://www.kagome.co.jp/company/ir>

1. 2018年度第2四半期決算内容

- ・減収減益、昨年のPBI社の業績を除くと増収減益

<売上高>

国内事業における飲料事業および通販事業の販売が伸長したが、PBI社売上の純減等で減収

<営業利益>

広告宣伝費の増加や国内農事業の2年連続の市況低迷等で減益

2. 2018年度下期の施策

- ・主力飲料のリニューアルによる基盤強化、スムージーのラインアップ追加
- ・機能性表示生鮮トマト販売、構造改革へ着手
- ・海外各子会社の収益体質の強化

3. 2018年度通期連結業績予想

- ・連結業績予想は据え置き

2018年度第2四半期 連結業績



単位：億円

	実績		対前年		PBI社業績除く対前年 (参考)		対業績予想	
		売上高比率		増減率		増減率		増減率
売上高	1,024	-	▲17	▲2%	+16	+2%	▲20	▲2%
営業利益	53	5.1%	▲9	▲15%	▲10	▲16%	▲4	▲8%
経常利益	54	5.3%	▲12	▲19%	▲13	▲19%	▲4	▲7%
第2四半期純利益※	46	4.5%	▲1	▲3%	▲3	▲5%	+5	+13%

※親会社株主に帰属する四半期純利益

- ・減収、各段階利益で減益
- ・昨年売却したPBI社を除いた比較では増収減益

<参考> のれん等償却後のPBI社の前年実績

売上高33億円、営業利益▲0.9億円、経常利益▲0.2億円、第2四半期純利益▲1.3億円

2018年度第2四半期 事業別業績



単位：億円

	売上高				営業利益			
	17年度	18年度	対前年	増減率	17年度	18年度	対前年	増減率
国内加工食品事業	747	752	+5	+1%	51	43	▲8	▲16%
国内農事業	61	63	+2	+3%	3	0	▲3	▲95%
国際事業	243	231	▲11	▲5%	5	6	+1	+10%
PBI社業績除く	210	231	+22	+10%	6	6	▲0	▲6%
その他／調整額	▲10	▲23	▲12	-	3	4	+1	-
合計	1,041	1,024	▲17	▲2%	62	53	▲9	▲15%

国内加工食品事業(増収減益)

- ・野菜生活100スムージー、トマトジュース、通販が好調も飲料依存傾向が続く
- ・広告宣伝費の増加で減益

国内農事業(増収減益)

- ・生鮮トマトの市場価格が昨年以上に低迷、供給過剰な市場構造への対応が遅れる

国際事業(減収増益、PBI社の影響を除くと増収減益)

- ・豪州の黒字転換などによる増益
- ・トマトペーストの相場低迷の影響を受けたポルトガルなどは減益

飲料 売上高434億円、営業利益24億円、増収減益



野菜生活 100スムージー

- 330mlリキャップ容器
- 飲みごたえ、ヘルシースナッキング
- GREENSとともに量販店でのコーナー化が進み、販売好調



機能性表示飲料

トマトジュース

- 18年1月より「血圧が高めの方に」の機能性表示を追加

- 昨年を上回る売上を維持

野菜ジュース

- 前年を上回る売上



食品他 売上高318億円、営業利益19億円、減収減益



食品

基本のトマトソース

- ・CMとSNSを連動させた広告により、販売好調
- トマトケチャップ、その他
- ・トマトケチャップは堅調だが、ウスターソースやパスタソースなどは前年を下回る

カゴメの通信販売
健康直送便



通販

- ・つぶより野菜、リコピンコレステファインの販売好調
- ・物流コスト増に対応し、配送費を改訂



業務用

- ・中食市場に向けて、野菜の惣菜などを提案
- ・受託商品の売上が減少

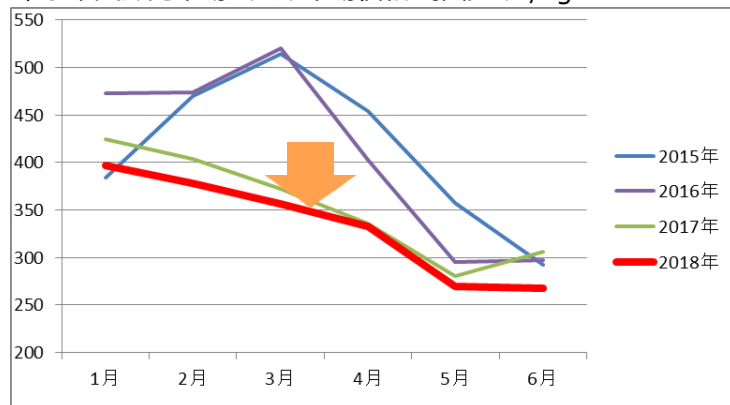
売上高63億円、営業利益16百万円、増収減益



高付加価値商品の販売に注力

- ・生鮮トマトの売上高は増加

東京中央卸売市場 トマト市場価格の推移 円/kg



東京中央卸売市場ホームページ 市場統計情報より作成

市場価格の低迷

- ・2018年以降、市場価格が低迷
- ・供給過剰な市場構造への対応遅れ



ベビーリーフ

- ・洗浄済みベビーリーフが好評

売上高231億円、営業利益6億円、減収増益



米国Kagome Inc.

- ・グループ内取引時期変更による純増
- ・新規導入設備の製造効率の一時的な悪化などで減益



ポルトガルHIT

- ・販売は前年並みも為替影響で増収
- ・トマトペースト相場の低迷により営業赤字



カゴメオーストラリア

- ・構造改革による利益体質への転換
- ・天候リスクを避けた生産の実施

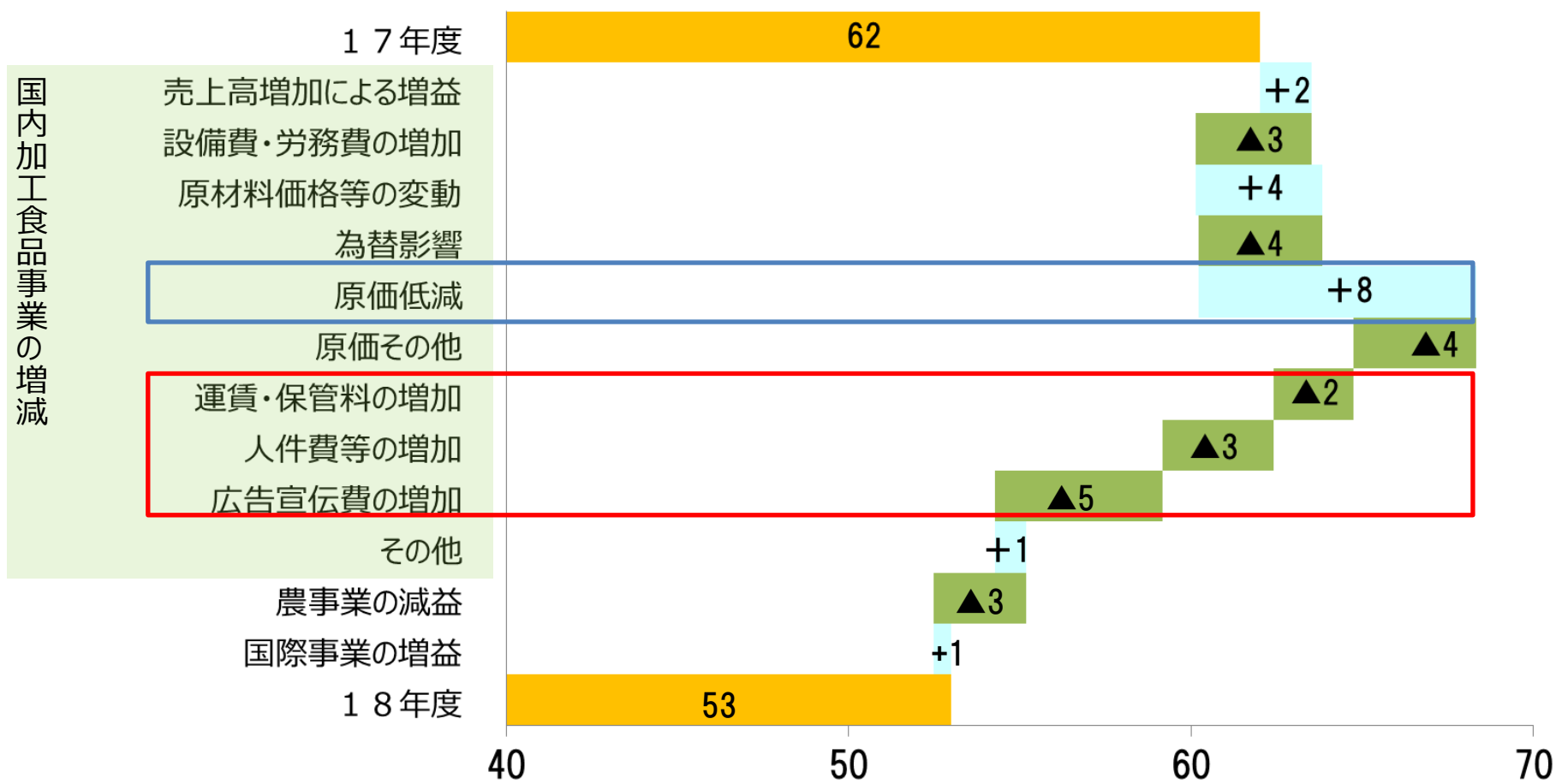


種苗の生産・販売 米国UG社

- ・中東・中南米での種子売上増
- ・米国・トルコでのトマト種子売上減少

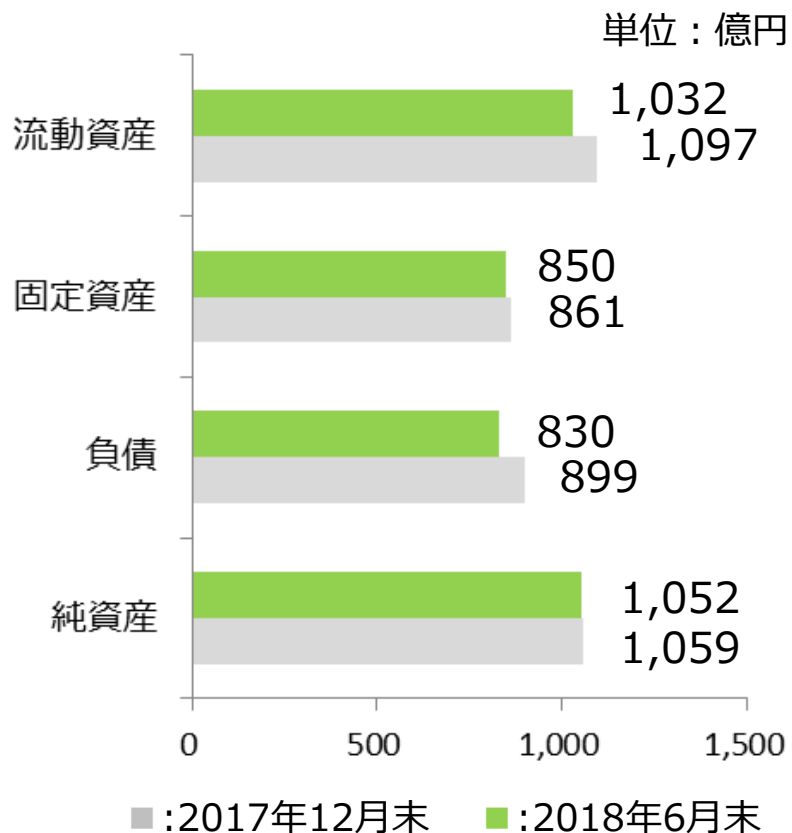
2018年度第2四半期 営業利益増減要因

単位：億円



総資産/負債・純資産
1,881億円(前期末比▲76億円)
自己資本比率53.9%(同+1.8ポイント)

単位：億円



流動資産▲65

現金及び預金▲45:有利子負債の返済など
 棚卸資産▲39:季節要因、為替影響など

固定資産▲11

有形固定資産+1:設備投資+46、減価償却▲24、
 土地売却▲10、為替▲10
 無形固定資産+1:のれん▲3、ソフトウェア+4
 投資その他の資産▲14:投資有価証券▲6など

負債▲69

有利子負債▲76:海外子会社の運転資金返済など

純資産▲7

純利益+46、支払配当▲27、評価差額等▲26

設備投資(有形固定資産)の主な内容

- ・那須工場無菌PETライン10億円
- ・茨城工場スムージーライン6億円 など

2018年度第2四半期 キャッシュフロー



単位：億円

	17年度	18年度	増減
営業活動によるキャッシュフロー(A)	129	74	▲ 55
投資活動によるキャッシュフロー(B)	34	▲ 26	▲ 60
定期預金、有価証券に関わる収支(C)	102	0	▲ 102
フリーキャッシュフロー(A+B-C)	61	48	▲ 13
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 245	▲ 91	+154

主な増減要因

- ・営業活動によるキャッシュフロー： 法人税等の支払額増加により減少
- ・投資活動によるキャッシュフロー： 定期預金、有価証券に関わる収支の減少
- ・財務活動によるキャッシュフロー： 借入金返済額の減少

飲料 リニューアルによる収益基盤の強化



基幹ブランドのリニューアル

- ・野菜生活100レギュラー
- ・野菜一日これ一本



機能性表示飲料

- ・機能性の理解を促進する新しいキャッチコピーへと変更
- ・トライアル獲得と継続飲用を促進

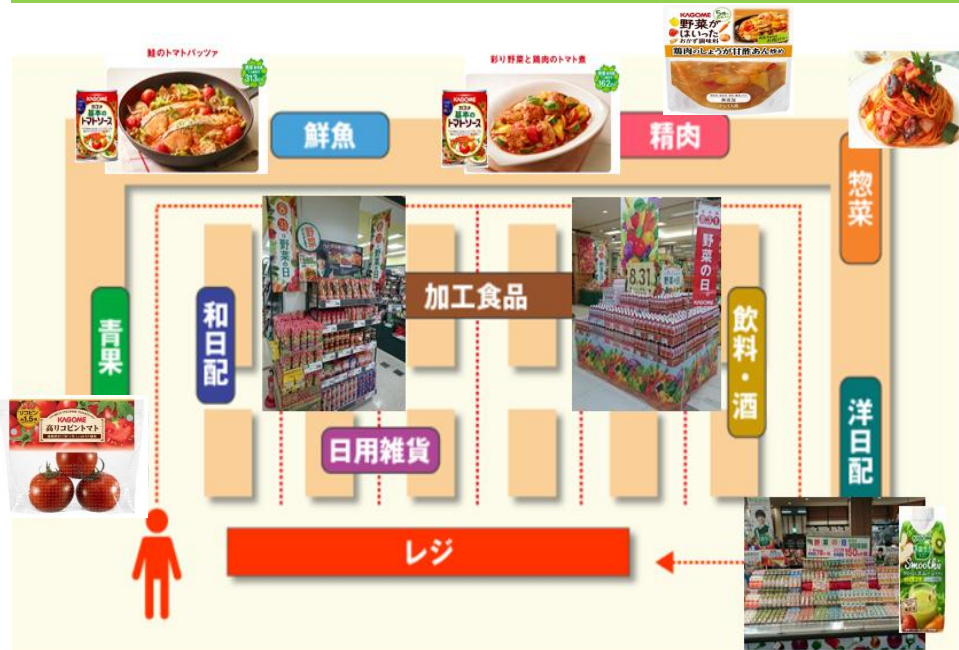


9月25日発売
 野菜生活100
 Smoothie
 レモン甘酒Mix

野菜生活100スムージー

- ・既存商品のリニューアル
- ・ラインアップ追加によるシェア拡大
- ・新しいコンセプトのスムージー発売

食品他 家業農連携で食卓に野菜メニューを増やす活動を強化



家業農連携による提案

- ・家庭用、業務用、生鮮を統合した提案が可能

ベジタブルソリューション

- ・外食、中食に対し、カゴメ商品を用いた野菜の惣菜を提案



8月21日発売
 野菜が入ったおかず調味料
 「鶏肉のしょうが甘酢あん炒め」
 「豚肉の旨塩ガーリック炒め」

野菜が入ったおかず調味料

- ・時短・簡便のニーズに対応
- ・野菜を摂取できるメニューが簡単に作れる



高付加価値トマトのラインナップ強化

- ・GABAを多く含むトマトの機能性表示化予定
- ・生鮮トマトで初めての機能性表示食品
- ・より一層の差別化を図る



夏秋産地トマトの販売強化

- ・端境期のトマト供給量が前年比10%増加の見込み



洗浄済みベビーリーフ商品の販売強化

- ・千葉菜園からの出荷開始
- ・供給量を拡大



グローバルフードサービス向けビジネス拡大

- ・得意先別のメニュー提案力の強化
- ・米国のビジネスモデルのアジア、欧州への展開



各子会社別の収益体質の強化

- ・トマトペースト価格の相場に左右されない体質への変換
- ・カゴメオーストラリアの人参ビジネスの拡大



Kagome Nissin Foods(H.K.) の事業開始

- ・海外コンシューマー事業の中核
- ・香港・マカオ地域の事業拡大
- ・将来的な中国市場への進出

2018年度通期業績予想

単位：億円

<売上高>

	17年度	18年度		現状見通し 対 期初予想
		期初予想	現状見通し	
国内加工食品事業	1,576	1,613	1,613	-
国内農事業	114	126	126	-
国際事業	488	473	473	-
その他/セグメント間取引	▲37	▲62	▲62	-
合計	2,142	2,150	2,150	-

単位：億円

<営業利益>

	17年度	18年度		現状見通し 対 期初予想
		期初予想	現状見通し	
国内加工食品事業	107	108	115	+7
国内農事業	▲2	3	▲4	▲7
国際事業	8	13	13	-
その他/セグメント間取引	7	6	6	-
合計	120	130	130	-

注意事項

当資料はカゴメの現在の計画、見通し、戦略などのうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたカゴメの経営者の判断に基づいております。従いまして、これら業績見通しのみで全面的な依拠することは控えるようお願い致します。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、以下のようなものが含まれます。すなわち、①天候、特に夏場の低温 ②異物混入等の製品事故 ③カゴメの事業領域を取り巻く経済情勢、特に消費動向 ④変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争にさらされた市場の中で、顧客に受け入れられる製品やサービスをカゴメが企画・開発し続けていく能力、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また当資料は、あくまでカゴメをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。さらに当資料に記載されている市場などのデータ等におきましても、当社が信頼に足りかつ正確であると判断した情報に基づき作成しておりますが、将来の予測のみならず過去の部分も含めて、見直し等により予告なしに変更することがありますのでご注意ください。